

2023年東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー

【発展篇】(2)

オープンアクセスと転換契約

東北大学附属図書館 情報管理課雑誌情報係

藤本菜穂子

「オープンアクセス」(OA)とは？

学術論文等の研究成果をインターネット上に公開し、誰でも無料で自由にアクセスできるようにすること。

※対象を研究データ等まで広げた場合は「オープンサイエンス」と呼ぶ。



Browse Articles

- Recently Published
- Accepted Articles
- Most Cited
- Most Read

 Open Access

Refining Continental Lithosphere as a Layer With Abundant Frozen-In Structures That Scatter Seismic Waves

V. Levin, S. Lebedev, J. Fullea, Y. Li, X. Chen

First Published: 7 July 2023

Key Points

- Beneath eastern North America sharp vertical gradients in seismic properties are pervasive, vary in nature and number, and extend to ~170 km
- Detected gradients reside above the depth to the thermally and mechanically defined lithosphere-asthenosphere boundary
- Continental lithosphere retains pervasive internal layering of density, elastic moduli, and texture, which is mixed out in the asthenosphere

[Abstract](#) | [Full text](#) | [PDF](#) | [References](#) | [Request permissions](#)

 Free Access

Thank You to Our 2022 Peer Reviewers

Isabelle Manighetti, Rachel Abercrombie, Yves Bernabé, Michael Bostock, Mark J. Dekkers, Satoshi Ide, Douglas R. Schmitt, Shin-Chan Han, Paul Tregoning

First Published: 6 July 2023

Key Points

- Thank you to the reviewers of articles submitted to *JGR-Solid Earth*

[Abstract](#) | [Full text](#) | [PDF](#) | [Request permissions](#)

 Full Access

Lithospheric Velocity Structure Beneath the Northern Margin of the South China Sea

Resources

[Special Collection Proposal Form](#)

[Personal Choice](#)

[Get RSS Feed](#)

[Institutional Subscription Rates](#)

[Subsets](#)

AGU Career Center

Tenure-Track Faculty Position in Land Surface Processes at the California Institute of Technology
Pasadena, California

Faculty position studying physical, chemical, or biological processes at the surface, shallow subsurface and impact on resources, habitats and climate

Employer: Caltech, Division of Geological and Planetary Sciences



[Apply for this job](#)

Doctoral student in coupled hydrogeochemical processes under dams
Stockholm, Sweden | 30 800-35 100 SEK/month

Fully funded 4-year Doctoral student in coupled hydrogeochemical processes under dams at KTH Royal Institute of Technology, Sweden

Employer: Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden



[Apply for this job](#)

Advertisement



オープンアクセスの種類

- ① **グリーン**OA・・・著者が自身のウェブサイトや所属機関の機関リポジトリ等で自著論文を掲載すること
- ② **ゴールド**OA・・・著者が雑誌への掲載時に論文掲載料 (APC = Article Processing Charge) を払い、公開すること

グリーンで掲載するのは、出版者版とは異なる、「著者最終稿」と呼ぶものが多い

(他に助成団体からの出資金等で維持管理・OA化する「ダイヤモンドOA」等もあり)

①グリーンOAの推進

- 機関リポジトリの構築

国内641大学(79%)で導入済み

- オープンアクセスポリシーの策定

同140大学(17.3%)

- 課題

- 論文によって著作権者への確認・許諾依頼が必要で、手続きに手間がかかる

- 利用者の目に留まりにくい

(2021年度末時点。R4年度学術情報基盤実態調査結果より。対象811大学)

②ゴールドOAの広がり

- 掲載論文すべてOAとし、APC収入で維持管理費用を賄う「フルゴールドOA誌」が登場
- APCは、雑誌により異なる(\$1,500~\$5,000)
- 課題
 - APC支払総額の増加(←大学による)
 - 購読費と出版費の二重払い

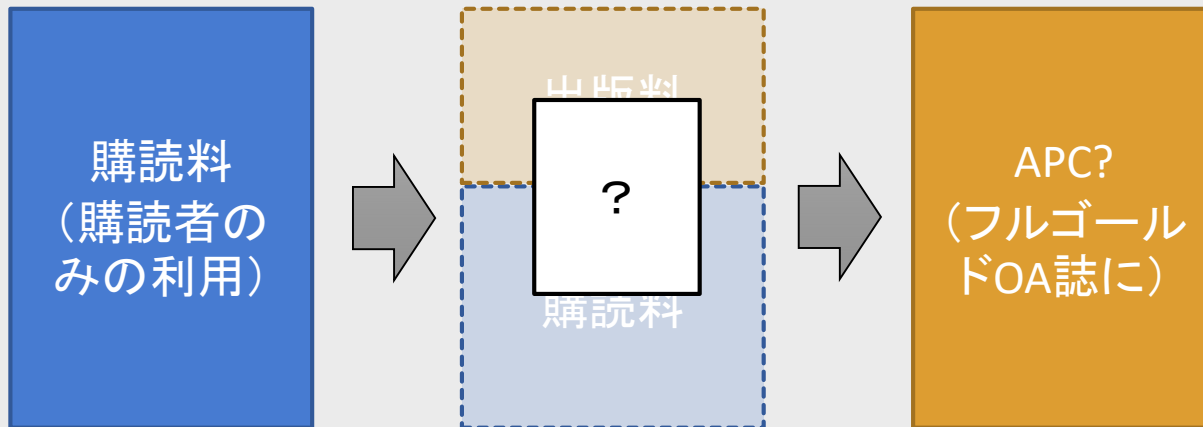
最大手エルゼビアのフルゴールドOA誌の割合は22%。

OAする/しないを選択できる大半の雑誌は、「ハイブリッド誌」と呼ぶ

NatureのAPCは\$11,690(約170万円)！。研究費の有り無しにより、OAできる研究者とできない研究者が発生し、格差がより深刻に、といった課題も。

購読モデルからOA 出版モデルへ

- 論文を「読む」ために料金を支払う
↓
- 論文をOA で「出版する」ことに主眼を置く



「OA2020ロードマップ」

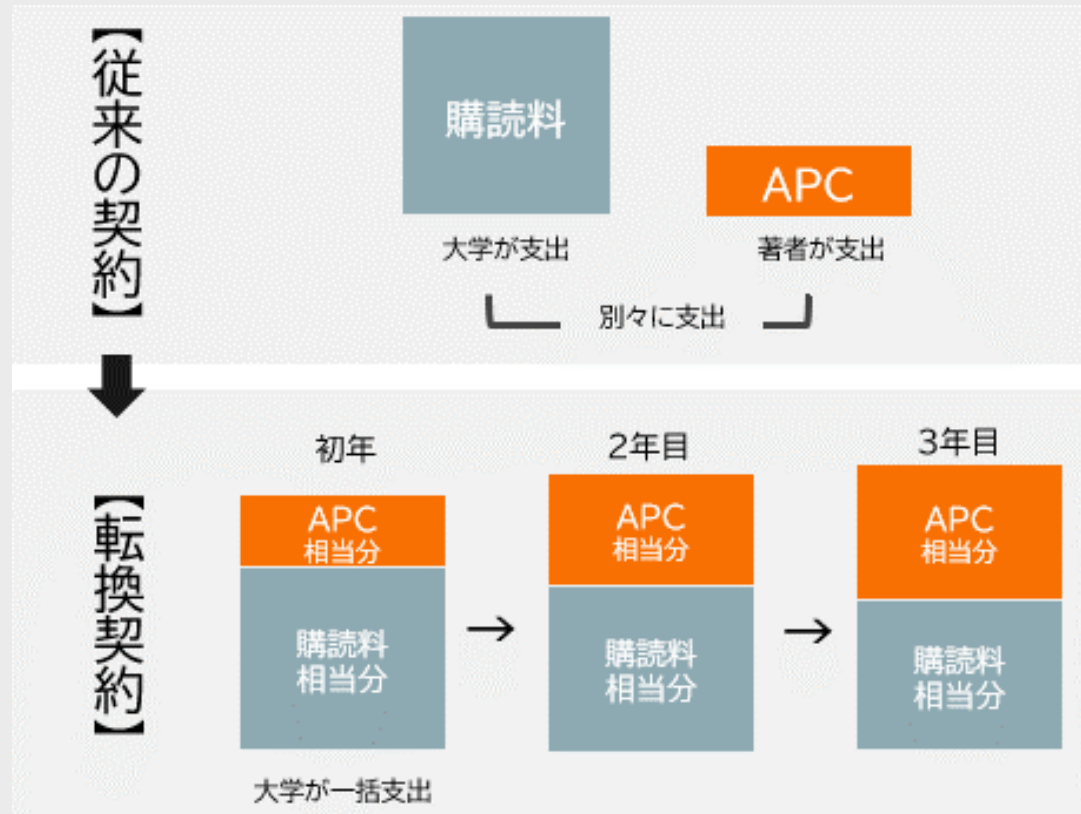
- 2019年3月
JUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)が”購読モデルからOA出版モデルへの転換をめざして～JUSTICEのOA2020ロードマップ～”を公表。OA出版モデル実現までの移行期を乗り越える道筋を明らかにすることを宣言

OA2020:ドイツのマックス・プランク研究所が主導するイニシアティブ。



(2023年2月改訂)

手段の1つである「転換契約」



割引|APCをセット契約するモデルは、「Read & Publishモデル(契約)」という。

- 著者個人に委ねていたAPCに、図書館が関与する必要がある
- JUSTICEもしくは個別機関単位では、出版社との交渉が困難

東北大学の近年の取り組み

- 2022年4月 4機関がWiley社と転換契約を締結
大手商業出版社との転換契約は国内初
- 2023年1月 10大学がSpringer Nature社との
転換契約を締結
- 2024年1月 ??

他大学や国全体への影響・波及効果を考えながら地道に交渉した。



(各種プレスリリース)

近年の国内の動き

- 科学技術・学術審議会 情報委員会 ジャーナル問題検討部会
「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について
(審議まとめ)」(2021年3月)
→大学執行部と図書館に対して、今後求められる機能を提示
- G7仙台科学技術大臣会合(2023年5月)
→「科学研究の自由と包摂性の尊重とオープン・サイエンスの推進」
について議論
- 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)による統合イノベーション戦略2023(2023年6月)
→2025 年度学術論文等の即時オープンアクセスの実現が目標に

• 科学技術・学術審議会 情報委員会 ジャーナル問題検討部会
「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について
(審議まとめ)」(2021年3月)(抜粋)

(2) 早急に取り組むべき課題

○ 現在の学術情報流通の環境下においては、ビッグディール等の購読経費とAPCの最適化が、我が国が対応すべき最重要課題。

<本検討部会として要請する具体的取組>

【大学等研究機関（執行部）】

- ・ 各自の研究戦略に基づく最適なジャーナル契約形態の決定と契約内容・経費配分の組換え
- ・ 同程度の規模や契約状況等の大学等研究機関が契約主体としてグループ化し交渉主体を明確にする取組の検討
- ・ 情報の共有及び補完を可能とする有機的なネットワーク構築の検討

【大学等研究機関（図書館等の学術情報流通部門）】

- ・ 関連データ（裏面参考1、2参照）の収集・分析及び執行部との結果の共有
- ・ 関係各部署と連携したAPC支出額等のデータの収集
- ・ 執行部や所属する研究者への自機関の現状に係る積極的かつ丁寧な情報提供及び説明

• G7仙台科学技術大臣会合(2023年5月)

内閣府
Cabinet Office

English

内閣府の政策 | 施策・制度 | 広報・報道 | 活動・白書等 | 情報提供

G7仙台科学技術大臣会合(概要)

令和5年5月13日(5月16日更新)
科学技術・イノベーション推進事務局

1. G7仙台科学技術大臣会合の概要

令和5年5月12日(金)から14日(日)に、宮城県仙台市・秋保温泉においてG7仙台科学技術大臣会合が開催され、高市大臣が議長を務めるとともに、G7仙台科学技術大臣会合

エコシステムの実現」をメインテーマの自由と包摂性の尊重とオープンな取組による信頼ある科学研究について議論が行われ、G7各国の共同声明を発表しました。
[Communiqué\(PDF形式\)](#)
[\(8\) 頁](#)

2. 「共同声明」のポイント

- (1) G7科学技術大臣は、民主主義、法の支配、自由と人権の尊重という共通の価値観や、ジェンダー平等を含む多様な価値観の重要性へのコミットメントを強調
- (2) 新たな知の創造に貢献できるよう、研究データや論文を含む科学的知識を公平に広めながら、オープン・サイエンスの拡大で協力
- (3) 不正な知識・技術の移転や研究・イノベーションに対する外国からの干渉のリスクに対する認識を高め、必要な場合は低減措置を効果的に適用するために、必要な努力が必要
- (4) 地球規模の課題を解決するため、宇宙、海洋、研究インフラ、国際的な人材の移転及び新薬における国際協力を促進

(2) 新たな知の創造に貢献できるよう、研究データや論文を含む科学的知識を公平に広めながら、オープン・サイエンスの拡大で協力

• 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) による統合イノベーション戦略2023(2023年6月)

(学術論文等のオープンアクセス化の推進)

公的資金によって生み出された論文や研究データ等の研究成果は国民に広く還元されるべきものであるが、その流通はグローバルな学術出版社等(学術プラットフォーム)の市場支配の下に置かれ、購読料や論文のオープンアクセス掲載公開料(APC: Article Processing Charge)の高騰が進んでいる。この高騰は学術雑誌の購読や論文の出版という学術研究の根幹に係る大学、研究者等の費用負担を増大させ、研究コミュニティの

25

自律性を損なうなどの悪影響をもたらす可能性がある。我が国の競争力を高めるために、研究者が自らの研究成果を自由にかつ広く公開・共有することができ、国民が広くその知的資産にアクセスできる環境の構築が必要である。このため、公的資金による論文、研究データ等の研究成果を新たな科学技術・イノベーションの創出や社会課題の解決につなげるべく、プレプリントなどの新たな形態を含めた多様な知へのアクセスを担保する取組を推進する。

また、本年5月に日本で開催されたG7広島サミット及びG7仙台科学技術大臣会合を踏まえ、我が国の競争的研究費制度における 2025年度新規公募分¹³からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する。具体的には、学術プラットフォームに対する交渉力を強化するため、国としての方針に基づく大学等を主体とする交渉体制の構築を支援する。さらに、論文、研究データ、プレプリント等の研究成

大切なことは？

- オープンアクセスを目指す方向性は変わらない。
→変化への対応が求められている！
- まずは自機関や所属研究者の状況を確認しよう。
→OAについては、もはや図書館だけの話ではなく、
もはや大学経営に関わる問題
→分析や推進のためには、他部署との連携が重要！
- 転換契約を締結することがゴールではない。
→オープンアクセスの本来の目的を忘れずに！

おわり

- 東北大も模索中です。
- 検証もこれからです。
- 軌道修正も覚悟の上でやっています。